

<研究主題>

# 地域・関係機関と連携した防災教育

～他者や社会の安全に貢献できる資質・能力の向上を目指して～

○平成25年3月9日（土）正午から

○第1部 研究概要説明

公開授業<石巻西高校からの復興メッセージ>

豊島区立千川中学校 3階体育館



第2部 豊島区防災フォーラムでの発表

池袋西口公園野外ステージ



# 研究発表会に90名以上が来場

3月9日（土）に千川中学校が2年間にわたって取り組んできた「防災教育」の研究発表会が開催され、第1部の体育館での会に約90名の方が来場されました。第2部の池袋西口公園での豊島区防災フォーラムだけに来場された方もいらっしゃいましたので、さらに多くの方にご覧いただけたと思います。

当日の第1部では宮城県の石巻西高校から齋藤校長先生をはじめ、自然科学部で生徒とともに震災後の調査を行った大竹先生と元生徒会長の鈴木さん、元吹奏楽部部長の志野さん、元文芸部部長の片平さんの3人の3年生が来校して、思いを語ってくれました。

**「後悔のないように毎日を送って欲しい。」** 震災で友達を亡くした鈴木さんは、気まずい関係でいた友達といつか時間がたてば仲直りができると考えていたことを悔やんでこう訴えました。

**「当たり前は何一つない。」** 大切な人がそばにいること、家がある、家族がいる、普段当たり前と思っていることがどれ一つとっても、当たり前ではないと気づいて欲しいと志野さんは語りました。

**「非常時の荷物をまとめておくこと。」** 逃げ遅れて家の2階に取り残されたために助かった片平さんは、苦しかった震災後の生活を経験したことからこうアドバイスをくれました。

そして、齋藤校長先生は、学校が避難所になった経験から、中学生は避難所の戦力であることを伝え、災害時の苦しい状況でも耐えられるように、普段から部活動や生徒会活動などの教室での勉強以外の活動を通して、「**心を鍛える**」ことが大切であることを教えてくれました。

そのほかにも、段ボール箱の机で勉強したこと、賞味期限切れのパンでお腹を満たしたこと、遺体安置所へ行く人と高校の合格発表を見に来る人が同じ敷地を歩いていたことなど、我々が想像できない現実がお話の中にはありました。

千川中からはお礼に、代表生徒で練習してきた「小さな勇気」という曲を合唱し、感謝の気持ちを伝えました。今回、多くの人に伝えなければという思いで、遠くから講演に来てくださった石巻西高校のみなさんの気持ちに応え、「**一生懸命生きて欲しい。**」という言葉を重ねて受け止めてこれからの毎日を過ごしていきましょう。

## 第2部豊島区防災フォーラムで代表生徒が活躍

続いて池袋西口公園野外ステージで開催された「豊島区防災フォーラム」では、代表生徒が防災の取組の成果を発表しました。まず、生徒会役員が、2年間の取組をステージ下の両脇に置かれた大型テレビに映像を映しながら紹介しました。次に夏休みを中心に訓練し、地域の防災訓練等でも技術を披露したD級ポンプの操作法を各部活動の代表生徒が披露しました。その後、歌好きな有志を集めて昼休みに練習した合唱曲「小さな勇気」と「COSMOS」の二曲を披露しました。「COSMOS」では文化祭でも全校生徒とともに歌ってくれた作詞作曲者のアクアマリンのお二人にも一緒に歌っていただき、土曜日午後の池袋西口公園に、震災からの復興を願う歌声が響きました。そして最後に、D級ポンプ訓練を重ねて、地域の行事でも披露してきた生徒たちを、今後も地域防災の担い手として活躍してくれることを願って、「防災ジュニアスタッフ」に認定し、アポロキャップを贈呈しました。これから彼らに続く人たちが次々と出て、若い世代の防災に関する取組の輪が広がっていくことを期待しています。